

日本結核病学会近畿支部学会

—— 第108回総会演説抄録 ——

平成23年12月3日 於 大阪国際会議場（大阪市）

（第78回日本呼吸器学会近畿地方会と合同開催）

会 長 平 田 一 人（大阪市立大学大学院医学研究科呼吸器病態制御内科学）

—— 一 般 演 題 ——

1. 真性皮膚結核の1例 °水野翔馬・塩見耕平・太田誠介・松村 正・岸本信康（姫路聖マリア病内）多田祥子・眞部恵子（同皮膚）

われわれは、比較的稀な真性皮膚結核の症例を経験した。頸部の皮下膿瘍で皮膚科受診し、膿瘍から結核菌が証明された。他臓器に結核病巣は認められず、真性皮膚結核の中でも皮膚腺病と診断した。

2. 非結核性抗酸菌症を同時合併した肺結核治療症例の検討 °坪田典之・谷 靖彦（喜望会谷向病呼吸器）

2010年以降当科で入院加療した菌陽性肺結核治療患者のうち、非結核性抗酸菌症も同時合併した5例（全例女性、平均年齢80歳、*M. avium* 3例、*M. intracellulare* 2例）について、その治療経過や特徴を検討した。

3. 救急外来を経由して入院となった肺結核症例の検討 °金子正博・藤井 宏・関谷怜奈・山下修司・金田俊彦・木田陽子・西尾智尋・富岡洋海（神戸市立医療センター西市民病呼吸器内）

平成21年4月から23年7月の期間、当院にERを経て入院となった肺結核22例について調査した。入院時の喀痰塗抹は、＋以上が9例、±が5例、－が8例であった。その他、病歴、臨床背景についても報告する。

4. 肺結核を疑った患者に対する気管支鏡検査の妥当性に関する検討 °竹中かおり・杉村春佳・川口智美・城谷知彦・竹中和弘（愛仁会高槻病内）

肺結核患者に気管支鏡を行うべきでない旨の指導が保健所からあった。過去2年間に肺結核を疑い気管支鏡を行った54例につき、行わなかった場合との診断率の差・検査関連有害事象を含め検査の妥当性に関して検討した。

5. 神戸市での結核患者支援における医療機関と保健所との連携 °藤山理世（神戸市中央区保健福祉部、神戸市保健所）松林恵介・水尻節子・白井千香・樋口純子・伊地智昭浩（神戸市保健所）有川健太郎・中西典子・岩本朋忠（神戸市環境保健研究所）

神戸市では1998年コホート検討会、2001年院内DOTS・地域DOTS、2005年DOTSカンファレンスを開始し、現在は結核病棟のない病院も含む4病院と実施中。クリニカルパス、分子疫学調査、接触者健診等の連携も行っている。

神戸市では1998年コホート検討会、2001年院内DOTS・地域DOTS、2005年DOTSカンファレンスを開始し、現在は結核病棟のない病院も含む4病院と実施中。クリニカルパス、分子疫学調査、接触者健診等の連携も行っている。

6. 結核病床のない地域中核病院におけるDOTSの現状 °大塚今日子・玉井浩二・川村卓久・門田和也・松本 健・竹下純平・田中広祐・永田一真・中川 淳・立川 良・大塚浩二郎・片上信之・富井啓介（神戸市立医療センター中央市民病呼吸器内）

結核病床をもたない当院では治療成績向上をめざし、2007年7月より院内および外来DOTSを施行してきた。2011年6月までに介入した203名の結核患者における治療成績や内容を中心に現状を報告する。

7. *Mycobacterium avium*による頸部リンパ節炎 °池上達義・多木誠人・村瀬博紀・杉尾裕美・古田健二郎・中治仁志・森田恭平・杉田孝和・堀川禎夫・西山秀樹（日本赤十字社和歌山医療センター呼吸器内）鈴木千晶（同耳鼻咽喉）

生来健康な60歳代女性に発症した*M. avium*による頸部リンパ節炎を経験した。細胞性免疫異常は検出されなかった。健康成人例はきわめて稀であるため報告する。

8. 非結核性抗酸菌症の再治療導入翌日に著明な血小板減少をきたした1例 °黒川雅史・田村嘉孝・韓由紀・松本智成・永井崇之（大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター感染症内）川瀬一郎（大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター）

75歳男性。肺MAC症に対してRFP/EB/CAM投与開始したところ、翌日口腔内出血を主訴に来院。血小板数は前日の 12.0×10^4 から $0.1 \times 10^4/\text{mm}^3$ に減少していた。抗結核薬による血小板減少について、文献的考察を行い報告する。

9. 肺炎様の浸潤影を呈した非結核性抗酸菌症の1例

°寺田貴普・前田理沙・金村晋吾・柴田英輔・本田実紀・
神谷 瞳・大桑久弥・大搦泰一郎・三上浩司・野木佳
孝・平山倫子・岡田あすか・村上亜紀・山田秀哉・田
村邦宣・田端千春・中野孝司（兵庫医大内科学呼吸器
RCU）福岡和也（同がんセンター）塚本吉胤・廣田

誠一（同病院病理）

症例は83歳男性。非結核性抗酸菌症にて経過観察中。
平成22年11月，胸部X線にて右下肺野に浸潤影を認め，
肺炎が疑われ当院に入院。抗生剤は無効であり，抗結核
薬にて軽快した。文献的考察を加え報告する。